

平成25年度事業計画

平成25年度に予定している事業は、下記のとおりである。

1. 所蔵資料等の調査研究とその成果の発表
2. 資料の収集・整理・保管・修理保存
3. 資料の公開・展示等
4. 一般および青少年を対象とした教育普及活動

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業

1. 研究員各自の調査研究（* a）を一層深め、外部研究者の参加も得て研究会や資料輪読会を定期的に行き、「三井文庫論叢」（第47号）の充実を図る。
 - * a 三井を中心とする、江戸時代における商業史・金融史の研究、明治以降の経済史・経営史の研究等
2. 三井関係資料（* b）の調査・収集を進める。
 - * b 相続会関係、三井銀行関係資料、旧三井物産関係資料（在米、在豪資料を含む）、三井鉱山関係資料など
3. 未整理資料の整理と公開準備（* c）を進める。資料保存のために貴重資料のマイクロフィルム化等（* d）を進める。
 - * c 三井合名資料、三井総元方資料、三井本社資料、旧三井物産資料。なお、平成25年11月に三井本社資料（一部）の公開を予定。
 - * d 三井合名資料、旧三井物産資料など
4. 内外利用者の便宜を図るため、所蔵資料目録の整備を進める。当年度中に、所蔵資料目録のWEB公開を開始する予定である。
5. 所蔵資料のなかから一般的に史料価値の高いものを翻刻刊行する「三井文庫史料叢書」のうち、大坂両替店「聞書」第二巻以降の刊行準備を進める。また、同第一巻の増刷を行う。
6. 戦後三井グループ史の研究・ヒアリングを行う。
7. 三井文庫WEBサイト（ホームページ）の充実を図る。
8. 公益財団法人三井文庫創立50周年記念展示の開催準備に取りかかる。
9. 社会経済史・経営史資料の収集・保存・公開・研究に携わる国内外の諸機関との経験交流、情報共有、共同研究などに取り組む。
10. 三井グループ各社の資料保存や歴史研修などの取り組みに協力をする。
11. 研究成果の普及ならびに資料保存啓発のため、講演会など一般向けの活動に取り組む。

II. 文化史・美術館関連事業

● 文化史関係（資料の保管整理研究事業）

1. 美術館（三井記念美術館）の収蔵庫、別館（三井文庫別館）の収蔵庫・展示室改造の保管室、三井倉庫（辰巳）、以上三か所に分散保管する収蔵品につき、保管場所の固定化と、管理台帳への記載、管理要項の作成、定期的な実査の実施などについて、数年内の完成実施を目標に作業を進める。

美術品の移送にあたっては、美術品専門の運送業者に依頼し、細心の注意を払う。なお、修理・定期的手入れを必要とする資料（* e）については、専門業者や専門家に依頼し、修復・保全を図る。

* e 掛軸、漆工品、刀剣。

なお、国宝「熊野御幸記」・重要文化財「古林清茂墨跡」は国および東京都の補助金の交付を得て修理を実施する（この修理は24年度と25年度二年間の継続事業である。事業名は「美術工芸品保存修理（熊野御幸記〈藤原定家筆／建仁元年十月〉・古林清茂〈与無夢一清偈／泰定四年至節後三日〉））。

2. 美術館（三井記念美術館）および別館（三井文庫別館）の収蔵庫・展示室内の環境を適切に管理し、保管に万全を期す。特に美術館の収蔵庫・展示室に関しては、温湿度の管理を徹底し、空調設備の改善・微調整を行う。また、収蔵庫内の有毒ガスなどの測定を定期的に行う。さらに、美術館展示室の燻煙による害虫の駆除、別館収蔵庫・展示室のガス燻蒸による、害虫およびカビの駆除なども状況に応じて実施する。
3. 館蔵資料およびそれに関する資料、展覧会に関連するテーマについて、必要に応じて外部研究者の協力を仰ぎながら、調査研究を進める。内外利用者の便宜を図るため、コンピューターによる所蔵資料目録の作成・整理を進める。

また、並行して研究員各自の調査研究（* f）を一層進める。

* f 日本文化史、茶道美術史、陶磁史、絵画史、書跡史、漆工史、仏教美術史、神仏習合美術史等。

4. 三井美術文化史論集 第7号を発行する。
5. 学会・大学・研究機関などの研究会等を受け入れ、研究活動を行う。
6. 他の美術館・博物館の展覧会等に対し、資料の出品協力を行い、学術文化の振興に寄与する。

● 三井記念美術館（資料の公開事業）

1. 三井記念美術館の展示室において、次の5期に分けて展覧会を開催する。（年間開館日数258日間）

* 『三井家のおひなさま [特別展示] 酒のうつわ』

平成25年4月1日～平成25年4月7日 開館日数：6日間

- ① 特別展『河鍋暁斎の能・狂言画』
平成25年4月20日(土)～平成25年6月16日(日) 開館日数：51日間
* 河鍋暁斎記念美術館、日本経済新聞社共催
- ② 特別展<美術の遊びとところVI>『大妖怪展 一鬼と妖怪そしてゲゲゲ』
平成25年7月6日(土)～平成25年9月1日(日) 開館日数：51日間
* NHKプロモーション共催
- ③ 特別展『国宝「卯花塙」と桃山の名陶―志野・黄瀬戸・瀬戸黒・織部―』
平成25年9月10日(火)～平成25年11月24日(日) 開館日数：66日間
- ④ 『楽茶碗と新春の「雪松図」』
平成25年12月4日(水)～平成26年1月25日(土) 開館日数：39日間
* 館蔵品による展覧会
- ⑤ 『三井家のおひなさま 特集展示「宴^{うたげ}のうつわ」』
平成26年2月7日(金)～平成26年4月6日(日) 開館日数：45(51)日間
* 館蔵品による展覧会

(注) 展覧会名、開催期間等一部変更を生じる場合があります。

2. 展覧会に併せ、関連事業として、講演会・講座等を実施する。
3. 一般および青少年・学生等を対象として、学芸員および教育普及員による展示解説・講演・講義等、教育普及活動を行う。
4. 小中学生を対象としたワークショップ(体験型の学習会)や鑑賞会を行う。
5. 青少年向けの展覧会ワークシートや小冊子を発行する。
6. 都内を中心とした小・中学校の教職員対象の研修会を行う。
7. 都内の教育機関より要望がある場合には出張講座を行う。
8. 美術品の貸出・借用にあたっては、管理・手続きを厳格に行い、事故防止の徹底に努める。
9. 美術館の運営およびPR面において、つぎの課題に取り組む。
 - ① 各展覧会の開催に合わせて記者説明会、内覧会、特別観賞会を実施すると共に、電力事情に応じて、開館時間の延長(ナイトミュージアム)の実施を検討する。
 - ② 東京駅周辺の3美術館(ブリヂストン美術館、出光美術館、三菱一号館美術館)と連携し、当館を含めた4館を鑑賞回遊していただくためのツールとしてマップと各館の展覧会スケジュール(上・下期別)を掲載したリーフレット「東京駅周辺美術館MAP」を共同発行する。また平成24年1月から発売を開始した、4館に1回ずつ入館できる「東京駅周辺美術館共通券」を平成25年についても実施し、相互に入館者の促進に努める。前年の実績を考慮し、販売価格を1部3,000円から2,500円に改定すると共に、有効期間を6月末日から各館の平成25年末の最終開館日まで延長の上、各館1,000部限定で販売する。

- ③ 当館の普及広報活動の一環として「東京・ミュージアムぐるっとパス2013」に参加する。
- ④ 集客強化対策として、三越伊勢丹友の会およびJR東日本「大人の休日倶楽部」等の有力会員組織との連携関係を強化する。
- ⑤ 来館者のリピーター化の促進および新しい来館者層を開拓するため、つぎの方策を講じる。
 - ・年間パスポートを検討し発行する。
 - ・大学生を対象とした「キャンパス・メンバーズ」制度を検討する。
 - ・来館者アンケートを継続して実施し、そのフィードバックにより、顧客満足度の高いサービスの提供に努める。
 - ・ミュージアムショップ、カフェにおいては、テーマ性や季節感のある演出を心掛けるとともに、オリジナルグッズやメニューの開発を進める。
 - ・三井グループ各社へのインナーキャンペーンを強化し、「賛助会社社員・家族特別招待会」、「賛助会社部門長特別招待会」、「賛助会社若手社員特別招待会」、「賛助会社女性社員特別招待会」等を定期的で開催し、各社の新入社員研修等の受け入れを促進する。
- ⑥ 賛助会社のVIPご招待など、美術館閉館後の貸切り特別サービスを継続して行い、さまざまなニーズにできる限り柔軟に対応する。
- ⑦ 開館8年目（平成25年）を迎え、空調関係設備機器、展示ケース等のメンテナンス対策、およびセキュリティ強化の一環としてサーバー・業務パソコンの周辺機器、およびネットワーク機器の更新などを実施する。
- ⑧ 近隣の商業施設・ホテル・美術館などのほか、行政および地元との関係を緊密にし、中央区主催のイベントへの参加や区民へのレクチャー等、日本橋地区の活性化に寄与する。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

平成23年度から毎年1回実施している箱根町教育委員会主催の「文化財探訪会」は、平成25年度も継続し公開していくが、その他には建築・茶道等関連学会や研究会での見学会を検討する。

修繕については老朽化した屋根関係、台所の天井・壁・床の補修、玄関の壁漆喰補修、自動火災報知器整備等の工事を行う予定である。

<収益事業>

I. 不動産賃貸業

現在、三井花桐ビルは全フロアー満室となっている。設備更新としては、照明器具更新工事第1期（1階・2階）を実施する。

以上